

グリーンインフラに関する実施済みの取組

茨木市文化・子育て複合施設 おにくる周辺エリア



安全な花見の名所、市民の憩いの場となる元茨木川緑地

中央通りのストリートデザインの検討・検証
社会実験「みちくる」

取組の位置



取組内容

- 緑の骨格軸となる元茨木川緑地のリ・デザイン：**「活動・文化を育む仕組み」、「植栽環境の健全化」、「利活用空間の創出」を柱に、市民参加型の計画・整備を推進。
- 市民とともにつくる市民会館跡地エリア：**「育てる広場」のキーコンセプトのもと、「対話」から「参加」へとつなげるため設計段階から市民参加型の多種多様なワークショップを実施。（合計108回、延べ参加者数2000人以上）
- 「立体的な公園」のようなおにくる：**建物を南側に寄せ、北面の公園側に広場を最大限確保。建物各階にテラスを設け、ランドスケープと建築がひとつながりになった「立体的な公園」のようなパブリックスペースを整備。
- 「考える・試す・また考える」プロセス：**おにくる竣工までの4年間（2016-2019）、市民会館解体跡地に市民の活動が、おにくると共に育つ取組を実施。市民自らイベントを企画・実践する「IBALAB@広場」の整備、社会実験の実施。

地域課題・目的

【地域課題】

- パブリックスペースの老朽化：**市民会館の老朽化と解体、元茨木川緑地（全長約5km）の施設の老朽化、公園や建築物における多様な利用ニーズ
- 市民活動や居場所の不足：**市民活動の拠点の不足、都市機能を集約する複合機能を有する施設や来街者の居場所となるパブリックスペースのニーズ、生活利便性・QOLの向上。

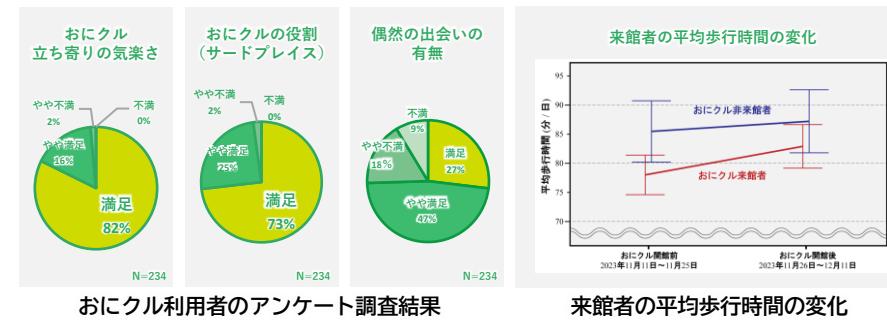
【目的】

- 中心市街地の拠点性と回遊性の向上：**新たな市の中心としての文化複合施設や市民が憩い、交流するための公園を整備し、拠点性と回遊性を向上。
- パークエリア一体の価値向上：**文化複合施設・公園・元茨木川緑地と一体的に整備・利用により、高質で魅力ある都市拠点の形成を図り、エリア一体の価値向上を目指す。

取組効果

- 市民の居場所（サードプレイス）の実現：**おにくるエリアの利用者の高い満足度を実現。気軽に立ち寄り、市民のサードプレイスとして日々様々な主体による多彩な活動が行われている。事業評価において来館者の98%が「立ち寄りの気楽さ」に満足し、98%がおにくるの「サードプレイスとしての役割」に満足、74%がよくある「偶然の出会いの有無」に満足している。（令和6年度指定管理施設評価結果）
- ウォーカブルなまちなかの取組推進：**「おにくる」の開館により、来館者の平均歩行時間が約3分／日有意に増加。複合型公共施設が居住者の歩行行動の変容を実証。※

※【発表雑誌】Scientific Reports [論文名] Daily Walking Time Effects of the Opening of a Multifunctional Facility "ONIKURU" Using Propensity Score Matching and GPS Tracking Techniques [著者] Haruka Kato



問合せ先

団体名：茨木市、株式会社竹中工務店、株式会社伊東豊雄建築設計事務所、株式会社地域計画建築研究所、studio-L、
住友林業緑化株式会社、株式会社ヘッズ、一般社団法人日本建築協会
連絡先：株式会社竹中工務店 設計本部 ランドスケープデザイングループ noma.shinji@takenaka.co.jp

工夫した点

- サクラ風景の継承と利活用促進**：元茨木川緑地の樹木約6000本の健全度把握、1本毎の植栽管理計画、サクラの後継樹の植栽配置計画を含む「元茨木川緑地植栽維持管理実施計画」を策定。リ・デザインを推進する利活用の社会実験の実施、イベント開催、プロモーション動画によるPRやコミュニケーションを推進。
- 循環と木育の場づくり**：元茨木川緑地の伐採木を用いたおにくるの屋内遊具へのアップサイクルにより、循環と木育をテーマとした子どもたちの遊び場と居場所づくり。
- 既存樹を活かした地域の景観づくり**：おにくる敷地内、元茨木川緑地の大径木の保全・移植・更新による地域景観の継承
- 緑の駐車場**：耐圧基盤緑化による緑の駐車場と雨水の浸透面の創出
- 市民が主役となる整備と運営**：広場のルールを利用者自身で決める「ルールづくり会議」、利用者同士をつなぐ「広場会議」、コーディネーターを育成する講座、参加者が増加のスパイラルアップの流れを生み、市民が「主役」となる。市民会議の結果を屋内外の設計・施工WSに反映、「立体的な公園」を実現。
- 市民と共に育つ広場の仕掛けづくり**：上流域の里山での実生苗の採取・育成・おにくるへの植栽をイベント化し、公園をともにつくるプログラム、子どもたちとともに育てる緑のワークショップ「出るかな？でないかな？」
- 雨水の浸透と有効利用**：広場や屋根に降った雨水の一次貯留・浸透を図る「レインスケープ®（雨庭）」により、気候変動適用策としての公共下水道への負荷軽減と雨水の見える化、「雨を楽しむ広場」を実現。
- 人の動線と滞留の可視化**：市役所前線を広場化する社会実験でおにくる竣工前・竣工後に人流測定・アクティビティ調査を行い、人流と滞留状況を調査。ひとを中心の道路の再編に向けた検討に活用。

【導入技術の名称】

雨水貯留浸透技術:レインスケープ®

歩行性に配慮した路面緑化工法:ハニカムグリーン®

【資金調達の手法】

クラウドファンディング:「遊び」を育てるプロジェクト

子どもたちのために茨木産材を活用した多彩な木の遊具の導入



既存樹を活かした緑の駐車場



元茨木川緑地の伐採木を用いた屋内遊具



上流域の里山での実生苗の採取・育成・植栽ワークショップ「出るかな？出ないかな？」



雨水の貯留・浸透を図るレインスケープ®



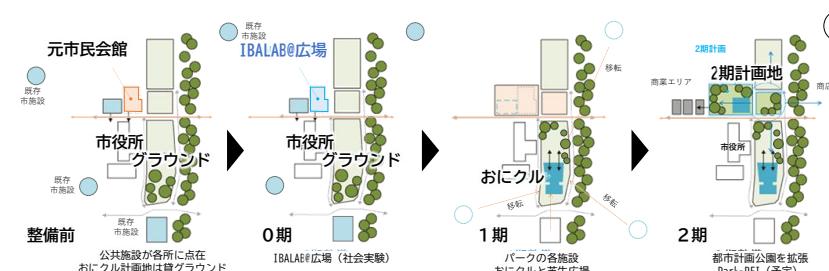
市役所前線を廃道・広場化する社会実験



人の動線と滞留場所の可視化 廃道を想定し滞留場所を緑地、動線を広場として計画



まちなかを楽しみ、使いこなすヒントをまとめたコンセプトブック「茨木まちなかスタイル」



パークエリアの段階整備



茨木のまちなかの将来像

今後期待される効果

- 来街者・住民の増加と茨木のまちのブランド力向上の相乗効果**：中心市街地の人の流入を増やし、中央通り・東西通りのウォーカビリティを向上。来街者や移住者の増加、茨木のまちのブランド価値の向上につなげる。
- 中心市街地の商店街への人流の波及**：IBALAB@広場を含む中央公園、おにくる、市役所前線のオープンスペースを活用したイベントなどにより、エリア内の回遊性を高め、商店街の活性化につなげる。
- ひとを中心の居心地が良いまちなかの実現**：まちなかを楽しみ、使いこなすための考え方、行動のヒントをまとめたコンセプトブック「茨木まちなかスタイル」の作成、ひとを中心の居心地が良いまちなかの実現に向け、価値観の共有・共感を広げ、活動の裾野を拡大。

今後の展望

- パークエリアの整備**：二期整備では、元市民会館や福祉文化会館（解体予定）の敷地を舞台に、令和11年のリニューアルを目指して取り組んでいる。第二期整備を目指して、IBALAB@広場に続き、中央公園で社会実験を実施した。コンセプトは『share to link（シェアとリンク）』、様々な人・過ごし方が、緩やかに空間・時間を共有でき、つなげていくようなエリアとなることを目指す。
- 道路空間の再編・ウォーカブルなまちなかへ**：おにくる整備を契機とした周辺エリアのストリートデザイン計画を策定、まちなかのひとが主役となった将来像を作成。市役所前線で二度の社会実験を通じた人流測定・アクティビティ調査により、人の流れと滞留の実態を踏まえたデザイン・整備を目指す。